特集

# 地域とともに走り続ける若桜鉄道

## ◆3期連続の黒字決算

令和6年度は、インバウンド利用者の増加があった一方で、猛暑や大雪による運休、コロナ明けによる全国的なイベント復活がなされる中での団体旅行や通勤・通学利用の減少による影響が見られました。この結果、旅客収入は4,742万8,720円となり、対前年比、98％で115万3千円の減となりました。

しかしながら、企画切符を活用したキャンペーンは実施期間中に売り切れとなるなど、若桜鉄道を利用した小旅行は人気で、特にSLや転車台などの貴重な車両や施設を見学しようと家族連れの姿が年間を通して多く見られました。

## ◆輸送人員は横ばい

輸送人員の総合計は、前年比ほぼ横ばいの42万2千人余り（前年比99・4％）となりました。

関西地方からのインバウンド利用者（個人・団体）の増加により普通旅客は425人増加した一方、通勤・通学利用者は2,934人の減少となっています。

少子化の影響が進む中、鳥取県との共同による「通学費助成制度」や、交通事業者間での「共通パス」の実施など、利用促進策に取り組んでいますが、団体利用や観光列車の貸切運行本数は減少傾向にあり、引き続き観光施設と連携した商品造成による利用者の確保が課題です。

95TH 若桜線開通記念

若桜鉄道は、平成21年4月から八頭町・若桜町が鉄道用地や線路・駅舎などの施設を保有し、若桜鉄道㈱が運行を担う、全国初の公有民営による上下分離方式で運行を続けています。
平成28年4月からは車両も両町が保有する体制となり、経営の安定化に向けた支援を継続しています。
若桜鉄道はみなさまの乗車により支えられています。引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いします。

このほか、町からの受託費、売店の売上、ＪＲからの車両使用料などを含む営業収益は、合計で約2億9，603万円に上りました。

とくに、令和5年から再開されたＳＬ／ＤＬ体験運転会は、令和6年度も定期的に実施され、毎回予定枠の倍以上の申し込みがあり、営業外収益の確保にもつながりました。

一方、人件費、業務費、運輸費、修繕費などを含む営業費用は、約3億1，500万円余りでした。

全国的に燃料費や消耗品の価格が高騰する中、アウトソーシングの活用や一層の経費削減に努め、前年から約1，300万円のコスト削減を実現しました。

また、鉄道車両を保有する企業や観光施設から、まくら木交換や車両修繕の業務を受注するなど、若桜鉄道ならではの技術力を活かした営業活動も展開されました。

その結果、当期利益は65万6，914円となり、3期連続の黒字決算となりました。

## ◆若桜線開業95周年を迎えます

若桜鉄道若桜線は、沿線地域の皆さまに支えられながら、今年12月に全線開通から95周年を迎えます。

国鉄時代の廃線決定から第三セクターへの移行、上下分離方式の導入や観光車両化など、時代の変化に対応しながら、若桜鉄道は地域の方々や全国の鉄道ファンに支えられて歩んできました。

開業当初から使用してきた車両の老朽化に伴う更新や沿線人口が減少する中での課題があります。今後もこれらに立ち向かいながら、これまで培った技術や文化的資産を大切に守り、鉄道の魅力や体験による感動を発信し続けるとともに、安心・安全な交通機関としての役割を果たすべく、開業100周年を目指してこれからも走り続けます。